

共に助け合う

自主防災組織

今年4月に起こった熊本地震では、隣近所で「大丈夫ですか」と声を掛け合い、互いの無事を確認したり、配給が十分に行き渡らなかった地域では、隣近所で食材を持ち寄り、屋外で食事をしたりしていたそうです。このことから分かるように、地域で支えあい助け合うことはとても大切です。

日頃から災害に備え、また被害をできるだけ抑えるために、地域で活躍する自治会等で構成された組織を「自主防災組織」といいます。新富町には現在、29の自主防災組織があります。



新町地区の防災訓練 (H27)

普段は何をする？

自主防災組織は、日頃から一人一人の防災意識を高めるため、講習会を開き防災への知識を深めたり、防災訓練を行ったりします。

災害時はどうする？

自主防災組織の非常時の応急活動の目標として、住民の避難誘導や負傷者の救護、給食・給水活動等が想定されます。

いろいろな取り組み

あらゆる災害に備えた施設や設備の整備は自治体が行います。しかし、これまで起こった未曾有の災害が、人々の防災意識を高め、独自の活動を行う個人や団体が増えてきているようです。

家庭と学校



9月1日の防災の日に、富田小学校で「家庭と学校が防災について考える会」が開催され、教員や保護者等約二百人が参加しました。



土屋町長が新富町の防災対策、防災の取り組みについて話した後、防災基地対策課職員による南海トラフ巨大地震、自らの生命を守るための自助・共助・公助についてなどの講話があり、参加された皆さんは、熱心に聞き入っていました。



少年消防クラブと建築士会

8月下旬、三納代運動広場に防災かまどベンチが設置されました。作ったのは、はやぶさ少年消防クラブ（新町子ども会）の子どもたちと、一般社団法人宮崎県建築士会高鍋支部（野添義二支部長）の皆さんです。災害時に利用してもらおうと建築士会高鍋支部が企画し、実施されました。



普段はベンチとして、非常時には炊き出し用のかまどとして利用できる。それが、**防災かまどベンチ**です。



これまではコミュニティー空間創出のため、ベンチを寄贈してきました。それに非常時の「機能」を付けたのが、このかまどベンチです。ぜひ利用してもらえれば嬉しいです。

4時間以内の
かまどベンチが
非難に耐えてたー



6年 相馬和奏さん

何かを作ることが好きで、楽しそうだと思って参加しました。でも、レンガが思ったより重くて大変でした。



野添支部長

このように、普段から自ら学び行動することも、大切な「自助」や「共助」です。皆さんも自分から、家庭から、地域から、災害対策について見直してみませんか？